

実践報告

札幌市立北の沢小学校

(1) 研究内容

研究課題：サッポロピリカコタンを活用した学習の研究

- 豊かな体験や深く考える場・実践する場を通して、生命と人権を尊重する心に基づく人間関係の確立や社会性を育成する。
- 自然や人間の尊さを知り、他者理解や自分らしく生きることの大切さ、心の優しさ・情操を育成する。

(2) 実践の内容

【実践①】サッポロピリカコタンで学ぶ「自然と人の共生の心」（4年 社会科）

○ねらい

- ・札幌市アイヌ文化交流センター「サッポロピリカコタン」の展示物や施設の見学を通じ、アイヌ文化や歴史に関する理解を深める。
- ・生活財や民具等の実物に触れたり歌や踊り、子ども遊びを体験したりする活動を通じてアイヌ文化に親しむ。
- ・アイヌ民族の方から文化や歴史、言葉、自然と共生した生き方、考え方に関する講話を聞き、人権意識の確立を図る。



舞踊の体験

○学習内容

1) 4年生の社会科「アイヌの人たちの生活と文化」と関連させてアイヌ文化や歴史について学習する。

①資料（アイヌ民族文化財団発行「アイヌ文化の歴史と現在」、社会科副読本「わたしたちの札幌4年上」等）を用いて「衣」「食」「住」「文化」について学習を行う。

②簡単なアイヌの言葉を学び、その言葉に込められた意味から自然と人のつながりについて考える。

③ピリカコタンの活動プログラムを知り、訪問見学の準備をする。

2) 学習の深化を図るため札幌市アイヌ文化交流センター「サッポロピリカコタン」での体験プログラムを活用した体験学習を行う。

①歌や踊り、子ども遊びを体験する活動を通じてアイヌ文化に親しむ。

②講師の方からアイヌ民族の歴史や文化に関する講話を聞き、人権意識を高める。

③館内見学や野外展示物の見学を通じて展示物や民具の実物に触れたり、説明を聞いたりしたりしながら、アイヌ文化と歴史、自然と共に生きる考え方について理解する。



民具や道具、伝統衣服の見学

3) 学習した内容を「ピリカコタンで見学したことをリーフレットで



伝統的な暮らしについての講話（チセ内で）

紹介しよう」というテーマでレポートにまとめ、3年生をはじめとする全校に発信する。

【実践②】『自分らしく生きる』権利について学ぶ（3年 総合的な学習の時間）

○ねらい

- ・自分が尊重されるのと同じように他者を尊重するなど、互いの権利を尊重し合うことの大切さについて理解を深める。
- ・自ら考え、責任をもって行動することができるような実践的態度を育てる。

○学習内容

- ・札幌市子どもの権利条例パンフレット「大切にしよう子どもの権利」を活用し、その中の「自分らしく生きる権利」に関

わる学習を4年生で学習するアイヌ民族の教育に至る関連学習として、今年度は3年生で実施した。（パンフレットは4～6年生用のため、当該の2・3・8ページを活用した。）

- ◇自分らしく生きる権利：①かけがえのない自分を大切にすること ②個性や他人との違いを認められ、一人の人間として尊重されること ③自分が思ったこと、感じたことを自由に表現すること ④プライバシーが守れること



(3) 研究のまとめ

① 成果

○サッポロピリカコタンの体験プログラムの内容（講話・歌・舞踊・遊び）が児童の興味や関心、知的好奇心を高め、アイヌ民族の文化を捉える学習にとっても効果的である。また、館内外の展示物に直接触れたり、自分たちの興味に基づき何度も見直したりすることで実感を伴う効果的な学習となった。

○継続研究の成果として、今年度、3年生の学習で自分たちのくらしから人権意識を高め、4年生の民族教育と併せて2年間の学習体験を経て高学年につなげていくような学習課程に取り組んでみたことは、人間尊重の意識の高まりに向けて効果的であった。

② 課題

- ・4年生の社会科でサッポロピリカコタンを活用している学校が今後、6年生の修学旅行で民族共生象徴空間「ウポポイ」の見学を取り入れる場合、児童が体験する内容が重複する場合が考えられるので、選択する体験の内容と学習のねらいの整理に取り組む必要がある。
- ・人権意識の育成に関わって関連する教科・領域の単元や活動、時数を各校で教育課程にどう位置付けるか。

③ 提言「人権教育のすすめ」

○人権教育を推進するために、校内研修の充実や外部講師の招請、行政機関や公的機関等が派遣する人権教室等の活用が効果的である。